

Environmental
Report
2017

the Recycler
for the sustainable Earth

創ること、次を産みだすこと。
それを継続させるための根底にある産業でありたい。

Message

循環型社会を担う企業としての 誇りと責任を持って未来に貢献します。



代表取締役社長

山口 大介

私たちは、鉄・非鉄のリサイクルと廃棄物処理を主な事業とし、
効率的な資源の再利用を実現するため、歩みを進めてまいりました。

ISO14001 に適合した環境マネジメントシステムを整備し、
明確な方針の下でリサイクル活動を行っています。

やまたけの事業活動に伴う環境および安全への取り組みについて、
ステークホルダーである皆さまへご報告を申し上げるべく、

このたび「環境報告書 2017」を発行する運びとなりました。

これまで私たちは廃棄物から純度の高い資源を作り出すため、分別技術の向上や
処理技術の開発などに継続的に取り組み、

2015年10月より本格稼働を開始した選別ラインの新導入によって
2016年度には廃棄物削減量、有価物回収量ともに大幅に増加させて
環境保全へとより良い結果をもたらすことができました。

また、「じゅんかんコンビニ」や「PC解体教室」など、地域に密着した取り組みを通し、
人びとの暮らしに寄与することも、私たちだからこそできる社会貢献だと自負しております。

今後は、本格的な古紙事業の参入など、新たな取り組みにも果敢にチャレンジし、
企業としてさらなる発展を目指していく考えです。

リサイクルと廃棄物処理は、循環型社会を推進する事業として、
人びとが安心して生活を送るうえで欠かすことのできないものです。

この事業に取り組む、弊社の社員一人ひとりが、誇りと責任を持って日々の業務にあたること、
また、それを実現できる環境を整えることにも、努めていく所存です。

「純度の高い資源を作り出し、新たなものづくりに還元していく」この使命を完遂するべく、
私たち、やまたけは、これからもさまざまな取り組みを進めてまいります。

Input

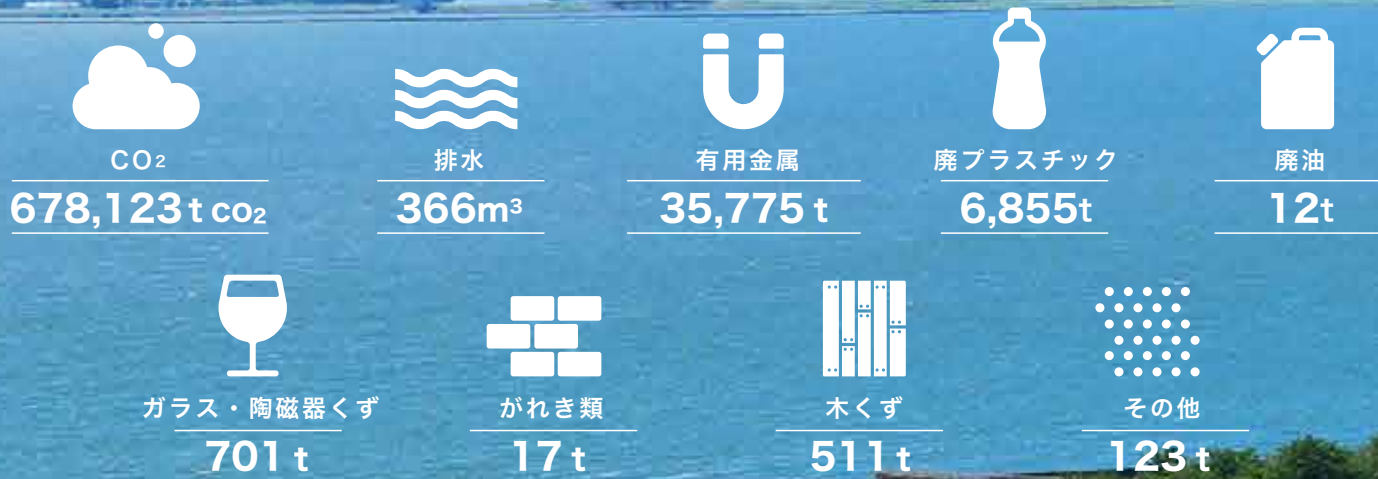
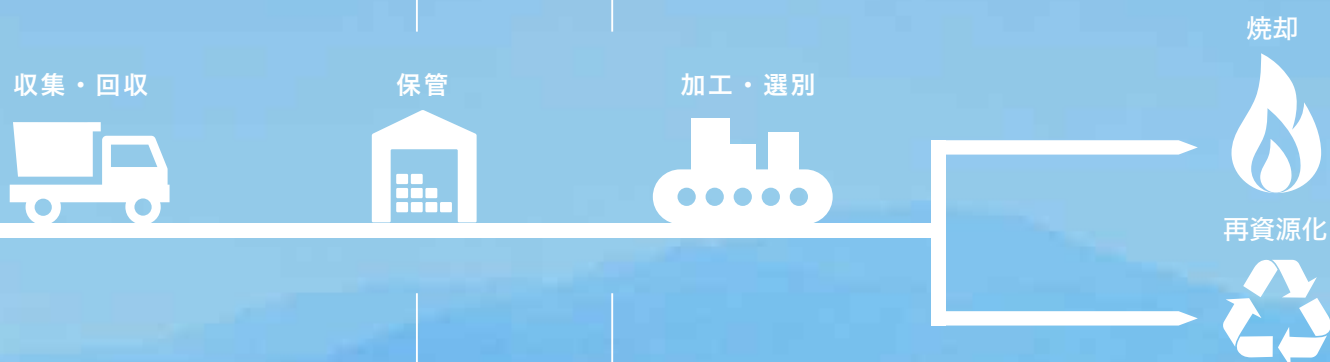
事業の流れ

Output

目次	Message メッセージ	2
	Material balance マテリアルバランス	2
	Environmental countermeasure 事業活動における環境対策	4
	Environmental management 環境マネジメント	6
	Data of project 事業に関わる環境データ	9
	Security action 情報セキュリティへの取り組み	9
	Social action program 環境社会貢献活動	10
報告方針	本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン（2012年度版）」を指標と、 お客様の視点で当社の環境に関する考え方や安全への取り組みを ご理解いただけるよう考慮し、作成しております。	
報告対象組織	株式会社やまたけ（本社、三郷営業所、土浦営業所）	
報告対象期間	2016年度（2016年4月～2017年3月） ※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。	
媒体	ホームページでも部分的に詳しく掲載しております。	
発行	2017年10月	

事業活動で必要とされる資源量やエネルギー量と、それに伴う廃棄量や排出量の関係を表しています。当社では、事業活動において発生する環境負荷データを把握、集計、分析し、これらの削減に取り組み、環境効率向上に努めていきます。

※データ集計範囲は本社および2営業所(2016年度実績)です。





Environmental countermeasure

事業活動における環境対策

当社は、主な事業である鉄・非鉄リサイクル事業および産業廃棄物処理業を行うにあたり、業務活動のあらゆる面で資源の有効活用、廃棄物の適正処理、環境汚染および事故の未然防止、省エネルギーの推進などに留意し環境保全を目指しています。

鉄・非鉄リサイクル事業

集められたスクラップから、これまで培った豊富な経験と卓越した技術で鉄と非鉄を選別。品質、純度、需要量、市中供給量、相場を勘案して製鋼原料として出荷し、国内のみならず世界の鉄鋼産業を支えています。

▶ 鉄リサイクル作業フロー

鉄スクラップは、ギロチンシャーに入れられた後、一定の大きさに揃えるため切断処理を実施。切断された鉄は、品種ごとに保管し、製鋼原料として出荷します。



原料投入
地上8メートルの高さのクレーンを操り、鉄スクラップをギロチンシャーに入れます。



切断処理
後工程を考慮し一定の大きさに整えるため800トン（土浦営業所）のギロチンで切断します。



出荷
専用の台貫にのせて、搭載鉄の重量を計測して、各メーカーに出荷します。

▶ 非鉄リサイクル作業フロー

高磁力非鉄選別機や人の手によるピッキング作業によって、非鉄を回収。種類は、多種多様であり、ピッキングの作業時には品種を見極める素早い判断と経験が必要になります。



原料投入
母材を選別ラインに投入します。



選別
高磁力選別機やピッキング作業でより多くの非鉄を回収します。



出荷
非鉄の種類ごとにまとめ、出荷します。

産業廃棄物処理、収集運搬事業

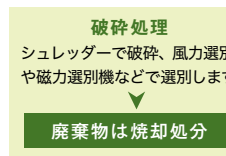
企業様や一般のお客様からお預かりした廃プラスチックや木くず、ガラス陶磁器くず等の廃棄物から、有用金属や再利用できる品物を選別。コンプライアンスを徹底し、最終処分まで責任を持って遂行しています。

▶ 産業廃棄物処理作業フロー

廃プラスチックや木くず、ガラス陶磁器くず等が混在している産業廃棄物。それらをシュレッダーで均一な大きさに粉砕。マテリアルリサイクルを念頭に機械で破碎と選別処理を行い、有用金属や再利用できるものを取り除いています。その際にでしてしまう廃棄物はサーマルリサイクルへ。シュレッダープラントには爆発制御装置、粉塵飛散防止装置を設置しています。



原料投入
重機で廃棄物をシュレッダープラントに投入し、破碎処理を行います。



破碎処理
シュレッダーで破碎、風力選別機や磁力選別機などで選別します。
↓
廃棄物は焼却処分

選別
破碎処理を行った後、有用物を回収します。



鉄、銅、アルミ、ステンなど。

▶ 収集・運搬サービスフロー

収集・運搬は法律で細部まで定められており、法改正などの情報収集や共有を絶やさず行い、「迅速、丁寧、安全、遵法」をポリシーに作業しています。経験豊富なドライバーが、用途に応じた合計20台の車両を使い分け、お客様のもとへ。道路交通法を遵守し、積載物の飛散や落下防止に努め、安全に最大限の注意を払い、作業を実施します。



収集
お客様のご要望や用途に合わせて車両を使い分け、収集します。



保管・加工
法律で定められた場所に保管し、加工を施します。



運搬
加工物は各メーカーへ、ダスト物は焼却所へ運搬します。

家電・小型家電リサイクル事業

最新家電製品は日々進出し、買い替えた分だけ不要となる時代です。
テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機の家電4品目やパソコンなどの小型家電を適切に処理し、少ない資源を有効に未来に残していくため日本の家電リサイクルに貢献しています。

▶ 家電リサイクル作業フロー

当社は家電4品目の「指定引取場」として、4品目の一時保管場所になっています。
家電小売店や一般消費者からお持ち込みいただいた家電のメーカーや種類によって保管。
持ち込まれた家電は家電リサイクル券のチェックや事務処理を行った後、リサイクルセンターへ発送しています。



お引き受け

家電量販店や電気店から回収された家電4品目をお引き受けします。



管理・保管

品目やメーカーごとにラックに入れて管理し、保管しています。



搬出

メーカーごとに分類し、リサイクルセンターへ発送します。

▶ 小型家電リサイクル作業フロー

2013年4月に施行された使用済み小型家電リサイクル法に則り、リバーホールディングス株式会社様の協力事業者として茨城県全域および埼玉県の一部の自治体から回収し適正処理を実施しています。
小型家電処理時に有用金属を回収し、高品質な原料代替品として有効利用するため技術を確認しリサイクルを行っています。



回収

茨城県全般および埼玉県の一部の自治体から回収します。



保管

出火することがないように電池等を取り外し、厳重に保管しています。



処理

シュレッダーで破碎処理し、有価物とダストに分けて処理しています。

自動車リサイクル事業

お客様から回収させていただいた自動車をできる限り捨てるものが少なくリサイクルできるように、有用部品等の採取はもちろん、全ての液体も個別に抜き取る処理を実施。
自動車リサイクル事業で自動車大国日本を支えていきます。

▶ 自動車リサイクル作業フロー

回収した自動車は解体後、リサイクルパーツや配線類の取り外しを行い、シュレッダーでの破碎又はプレス処理後、選別を経て、製鋼原料として出荷。燃料からオイル、ウィンドウォッシャー液など全ての液体は専用器材で個別に抜き取ってリサイクルしています。



回収

回収した自動車は事業所内に保管しておきます。



パーツ取り

リサイクル可能なパーツや配線類などを取り外します。



破碎・圧縮

破碎又はプレス処理後、選別して製鋼原料として出荷します。

じゅんかんコンビニ

お持ち込みいただいた資源物に応じてポイントを還元し、適性な処理によってリサイクルする「じゅんかんコンビニ」を実施中です。
また、古紙リサイクルやプラスチック分別力の向上にも積極的に取り組んでいます。

▶ じゅんかんコンビニサービスフロー

お持ち込みいただいた資源物に応じてポイントを還元し、適性な処理によってリサイクル。
貯まったポイントはコンビニエンスストアで利用できる Quo カードと交換します。



お引き受け

お持ち込みいただいた資源物をお引き受けします。



計量

ポイント還元のため、資源物の種類や重量を確認します。



ポイント還元

資源物の種類と重量に応じてポイントをカードに加算し、お渡します。



Environmental management

環境マネジメント

当社は、ISO14001 に適合した環境マネジメントシステムを整備し、明確な方針のもとでリサイクル活動を行っています。
各事業所は年度ごとに目標を設定し、環境マネジメントシステムのさらなる高度化を目指したさまざまな取り組みを実施しています。

環境方針

当社は鉄・非鉄のリサイクル事業及び産業廃棄物処理業（運搬・処理）を行うにあたり、業務活動のあらゆる面で資源の有効活用、地球環境保全を人類の共通した重点課題である事を認識し、環境汚染の防止に取り組み、自然との調和を目指します。

- ① 環境法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- ② ISO14001 に基づき構築した環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
- ③ 環境パフォーマンスの向上のため、項目ごとに目的、目標を設定し、改善活動を維持するとともに内部監査等によりレビューを行います。
- ④ 環境負荷の軽減をはかり、汚染の予防に努めます。
- ⑤ シュレッダーダスト及び小型家電からの有用金属の選別に注力し廃棄物の削減に努めます。

組織の状況

当社ではEMSの運営に関する組織の現状を踏まえ、下記の規定に従って運営を行っています。

組織及びその状況の理解 (ISO14001 4.1項)

当社は、経営理念に掲げる当社の目的に関連し、かつ、そのEMSの意図した成果（環境パフォーマンスの向上、順守義務への適合、環境目標の達成）を達成する当社の能力に影響を与える、外部及び内部の課題をトップマネジメントが参画する会議体（統括環境委員会）及び、マネジメントレビューにおいて決定する。

課題には、当社から影響を受けるまたは当社に影響を与える可能性がある環境状態（異常気象、大災害が発生した際に想定される環境への影響）を含める。

決定した外部及び内部の課題は、「各種会議記録」「マネジメントレビュー実施記録」に記録する。

なお、意図した成果は、①環境パフォーマンスの向上、②順守義務を満たすこと、③環境目標の達成である。

利害関係者のニーズ及び期待の理解 (ISO14001 4.2項)

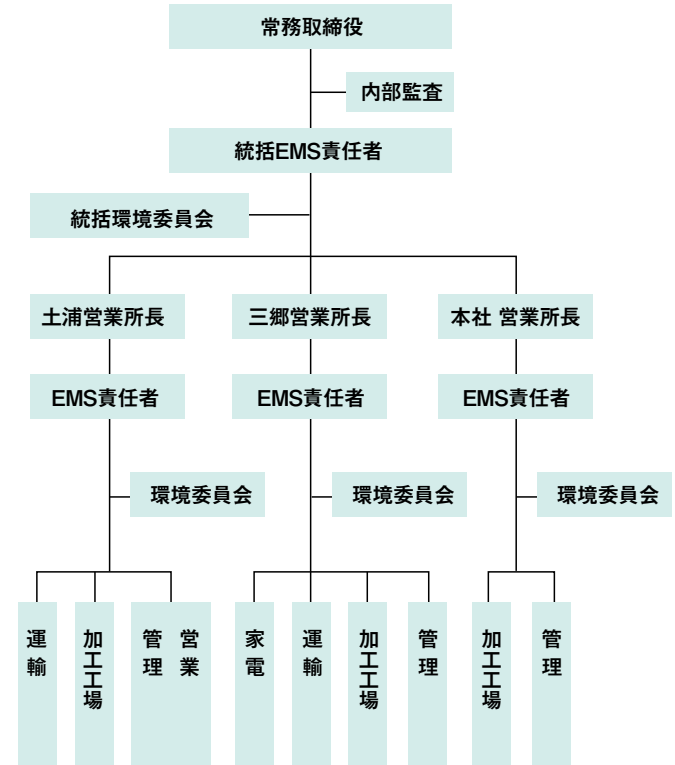
当社のEMSに関連する利害関係者の主なニーズ及び期待（すなわち要求事項）は原則として以下のとおりである。

利害関係	ニーズおよび期待
顧客	当社が提供する製品やサービスの環境への影響が要求事項を満たしていること
近隣住民	環境事故予防、騒音・振動、悪臭などの影響を及ぼさないこと、良好なコミュニケーションを維持すること
行政機関	法令、条例、地域協定などが確実に順守されていること、調査、アンケートなどへ協力すること
仕入先、協力会社	確実な購買情報（必要に応じて手順）の伝達が行われること、共存共栄の関係であること
株主	適正利益を確保すること

運用のための組織体制

当社はEMSを効果的に運用するための主な資源、役割、責任及び権限を定め、必要な部への周知を図るよう努めます。

● 運営体制図



最終的な責任を有し、その責任においてEMSの推進に努めるため、以下の措置を講じる。

- ・環境方針の制定
- ・適正な人員配置と予算的措置と資源
- ・EMS責任者の任命
- ・EMSの見直し
- ・内部監査責任者及び監査員の任命
- ・内部監査の実施の指示
- ・環境マニュアル及び実施計画の承認
- ・EMSが、ISO14001：2015規格の要求事項に適合することを確実にする
- ・環境パフォーマンスを含むEMSのパフォーマンスをマネジメントレビュー、及びその他の会議体でEMS責任者に報告をさせる

EMS責任者

- ・統括責任者：横山 盛信
- ・本 社：横山 盛信
- ・三郷営業所：佐々木 悠輔
- ・土浦営業所：川島 則夫

また、上記組織図における、EMS責任者、内部監査責任者、監査員、環境委員会、各営業所長の責任と権限についてはホームページにて掲載。

当社はEMS実施にあたっての計画策定に関する事項を以下のように定め、順守してまいります。

リスク及び機会への取り組み

- 1) 当社は、以下に記載のとおりプロセスを確立し、実施、管理し、かつ、維持する。
- 2) 取り組む必要がある、環境側面、順守義務並びにその他の課題及び要求事項に関連するリスクおよび機会を、「リスク及び機会への取り組み」に明確にする。その内容は課題、順守義務（利害関係者のニーズ及び期待含む）から「著しい環境側面登録表」などによりEMS責任者が決定する。
- 3) EMSの適用範囲のなかで環境影響を与える可能性のあるものを含め、潜在的な緊急事態を決定する。この決定プロセスを「環境側面一覽表」に確立し、実施し、維持する。
- 4) 環境側面、環境目標を達成するための取り組みの計画策定に必要なプロセスは「リスクおよび機会への取り組み」に示す。

環境側面

- 1) 次のプロセスを確立し、実施し、管理し、かつ維持する。
EMSの定められた適用範囲のなかで、ライフサイクルの視点を考慮し、当社の活動、製品及びサービスについて、当社が管理できる環境側面および当社が影響を及ぼすことができる環境側面、並びにそれらに伴う環境側面を決定する。
- 2) 環境側面を決定するとき、当社は、次の事項を考慮に入れる。
①変更。これには、計画した、又は新規の開発、並びに新規のまたは変更された活動、製品及びサービスを含む。
②非通常の状況及び合理的に予見できる緊急事態。
- 3) 著しい環境影響を与えるまたは与える可能性のある側面（すなわち著しい環境側面）を決定する。
- 4) 決定した著しい環境側面は「著しい環境側面登録表」に文書化し組織内に周知する。
- 5) 文書化した情報を以下により維持する。
①環境側面及びそれに伴う環境影響：「環境側面洗い出し表」
②著しい環境側面を決定する：「環境影響評価データ表」
③著しい環境側面：「著しい環境側面登録表」

順守義務

- 1) EMS責任者は、環境側面に関する順守義務を「法的要求事項評価一覽表」に文書化する。この情報は社内におけるすべての従業員が閲覧できる状態を維持する。
- 2) EMS責任者は、上記で決定した順守義務をWebサイトへのアクセス、外部専門機関、行政窓口からの情報入手などによって最新化する。最新化は原則として年度末に行うが、法令などの発行日に留意し対応する。
- 3) 「法的要求事項評価一覽表」には決定した順守義務を当社にどのように適用するかの情報も含めるものとする。また、EMSを確立し、実施し、維持し、継続的に改善するとき、これらの順守義務を考慮に入れるものとする。

取り組みの計画策定

- 1) 次の事項を、「リスク及び機会への取り組み」とおり計画する。
①著しい環境側面 ②順守義務 ③その他のリスク
- 2) 「リスク及び機会への取り組み」には、上記取り組みとEMSプロセスとの関連を示すものとする。
- 3) 取り組みの有効性の評価は、パフォーマンス評価の定めに従って実施する。
- 4) これらの取り組みを計画するときは技術上の選択肢、並びに財務上、運用上及び事業上の要求事項を考慮する。

環境目標

- 1) 次の事項を、「リスク及び機会への取り組み」とおり計画する。
①著しい環境側面 ②順守義務 ③その他のリスク
- 2) 環境目標は、次の事項を満たすものとする。
①環境方針と整合している。
②実行可能な場合、測定可能である。
③適切性、妥当性が監視されている（例えばマネジメントレビューで実施）。
④伝達されている。
⑤必要に応じて更新する。

環境目標を達成するための計画策定

- 1) 環境目標の達成計画を、以下を含めて「実施計画書」に策定する。
①実施事項 ②必要な資源 ③責任者 ④達成期限 ⑤結果の評価方法
- 2) 環境目標達成の取り組みと事業プロセスの統合については、ホームページを参照とする。

コミュニケーションを軸とした支援

当社はEMSの確立、実施、維持及び継続的な改善に必要な資源を決定し、提供する。資源には人的資源、専門的な技能、技術、インフラストラクチャー、情報等が該当します。

本書では、当社が特に重要視しているコミュニケーションに重点をおき、内部コミュニケーション、外部コミュニケーションについての定めを以下に記載します。

コミュニケーションプロセスは「内部コミュニケーション記録」により対応する。

- ・EMS責任者は、事務からの情報について対応の要否を判断し、要の場合は適任者に対応を指示する。対応者は、対応の結果をEMS責任者に報告する。
- ・外部苦情、法違反、行政指導、緊急事態などに関しては不適合報告書（事故報告書）で対応する。
- ・外部での環境保護、地域貢献、生物多様性、障害者支援などのボランティア活動も対象とする。

	内容	時期	対象者	方法・記録
内部 コミュニケーション	年間活動の総括と次期活動の方向性の決定	年度末	トップマネジメント・EMS責任者	マネジメントレビュー
	環境目標の進捗状況確認、新目標の設定	毎月	EMS責任者	環境会議議事録
	著しい環境側面、リスク及び機会、順守義務、環境目標	4月	従業員	朝礼・教育訓練記録
	法改正、事故、緊急事態、見学、改善提案	随時	従業員	内部コミュニケーション記録
外部 コミュニケーション	外部苦情、行政立会、環境保護・地域貢献活動・賞賛	発生時	事務 → EMS責任者	外部コミュニケーション記録
	利害関係者からの要望	同上	事務 → EMS責任者	外部コミュニケーション記録
	行政機関からの要望	同上	行政機関	外部コミュニケーション記録
	順守義務対応（届出など）	同上	行政機関	法的要求事項一覽表
	緊急事態の情報発信	同上	行政、近隣	緊急事態対応手順書
	環境関係一般広報	年度末	利害関係者	ホームページ等

EMSの運用においては「運用の計画及び管理」「緊急事態への準備及び対応」を定め遵守してまいります。

運用の計画及び管理

- 次に示す事項の実施によって、EMS要求事項を満たすため、「運用管理手順」のタイトルを「リスク及び機会への取り組み」に示す。これらのプロセスを確立し、実施し、管理し、かつ、維持する。
 - プロセスに関する運用基準の設定
 - その運用基準に従った、プロセスの管理の実施
 - プロセスの実行に必要なコミュニケーション
- 計画した変更（例：設備の新設、改造、工程変更など）によって生じた結果については、原則としては正処置プロセスにもとづき、レビューし、必要に応じて、有害な影響を緩和する処置をとる。
- 意図しない変更（例：設備のトラブル、危険物漏洩など）によって生じた結果については、原則としては正処置プロセスにもとづき、レビューし、必要に応じて、有害な影響を緩和する処置をとる。
- 外部委託したプロセスが管理されているまたは影響を及ぼされていることを確実にするため、ライフサイクルの視点に従って、以下の管理を実施する。

緊急事態への準備及び対応

- 潜在的な緊急事態への準備及び対応のために必要なプロセスを「緊急事態への準備及び対応プロセス」に確立し、管理し、かつ維持する。
- 「緊急事態への準備及び対応プロセス」で計画した対応処置は、年に1回（原則6月）テストし、改訂する。
- 緊急事態への準備及び対応についての関連する情報は「緊急事態への準備及び対応プロセス」「教育計画」などに明確にする。

正確な情報、成果の把握を実現し、公平な評価ができるよう以下の規定を設け遵守してまいります。

環境パフォーマンスの監視、測定、分析、評価は「リスク及び機会への取り組み」のとおりとし、その詳細は必要に応じて個別の運用管理手順に明確にする。「実施計画書」「監視測定シート」などによって得られた結果をもとに、トップマネジメントがあらかじめ定めた間隔でEMSレビューする「マネジメントレビュー」で評価を行うと同時に、順守義務を満たすプロセスを確立し、漏れのないよう努める。

またEMSが次の状況にあるか否かに関する情報を提供するために、年1回（原則9月）に内部監査を実施する。

- 次の事項に適合している。
 - 環境マネジメントシステムに関して、組織自体が規定した要求事項
 - この規格の要求事項
- 有効に実施され、維持されている。

改善

EMSの意図した結果を測定するために、改善の機会を決定し、必要な取り組みを実施してまいります。

不適合及び是正処置

プロセスを確立させ「不適合報告書」に確立し、実施し、管理し、かつ、維持する。

継続的改善

環境パフォーマンスを向上させるために、EMSの適切性、妥当性及び有効性を環境推進委員会、マネジメントレビューを通じて継続的に改善する。

環境及び事業マネジメントの課題と今後のビジョン

粉塵対策

選別ラインの粉塵対策として、集塵機の設置、ゴーグルやマスク着用の義務化を行いました。近隣地域への環境配慮および従業員が働きやすい職場づくりに努めています。

エネルギーの削減

各営業所が保有している設備の特性を活かし、資源・廃棄物や解体物などを振り分けて処理を施すことで無駄な設備の稼働を抑え、環境に配慮しています。

事故削減

従業員同士の挨拶を「ご安全に」と決め、お互いに「安全」を意識づける活動を行い、事故削減を目指しています。

回収率アップ

有用金属の回収率を上げるために、新たな破碎機や選別機の導入及び実働を検討しています。

ダスト排出量削減

破碎機投入前の事前選別にも力をいれており、マテリアルリサイクルで回収できるよう試行錯誤を重ね、ダスト排出量の削減に取り組んでいます。

労働環境の改善

労働環境の満足度向上を目指して、スマイル＆ハッピー委員会を開催しました。各営業所や従業員同士の交流を深めるための企画やごみ拾い活動なども委員会主体で行っています。

従業員提案制度

従業員一人ひとりが持っているアイデアをリサイクル事業や会社運営などに活かしていくため、従業員提案制度を実施。年間の最優秀提案には表彰を行い、さらなる職場環境の向上に努めています。

従業員教育

リサイクル業界未経験者の方が当社（業界）で使われている言葉の意味を理解することを苦しまれている対策として、今後は簡単な「用語辞典」などを作って、新人研修に役立てていく予定です。また、専門家による法律の勉強会を開催し、廃掃法の理解の底上げを目指しています。

お客様満足度向上

お客様満足度の向上を目指して、CS委員会を開催しました。お客様に「また来たい」と思ってもらえるような営業所の環境及び雰囲気づくりを目指し、声かけ運動や美化運動を行っています。



Data of project

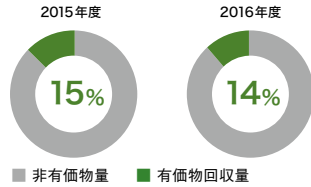
事業に関する環境データ

主な事業である鉄・非鉄のリサイクルと廃棄物処理において、効率的な再利用を実現するため、分別技術の向上や処理技術の開発など、積極的な取り組みを実施。同時に、社員一人ひとりが常に事故への危機意識を持ち、安全を追求しながら日々の業務を進めています。

資源リサイクルへの貢献

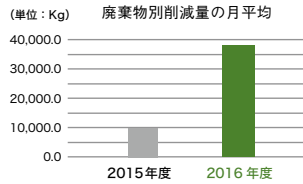
有価物回収率

2016年度は、回収資源・廃棄物量のうち、有価物回収率は14%となり、前年度比では-1%でした。有価物回収率の向上を実現するため、新たな破砕機および選別機の導入も検討しています。※一部不純物も含まれます



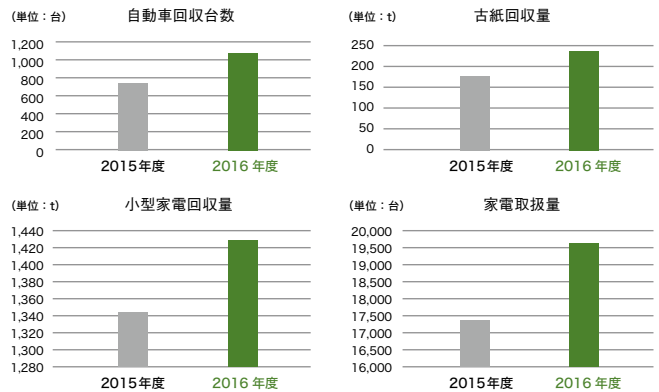
選別ライン導入実績

2016年度の廃棄物削減量は、選別ラインを導入したことにより月平均 36,989.6 kgとなり、前年度の月平均より大幅に増加する実績を残すことができました。今後も分別技術を向上させてまいります。



取り扱い量の推移

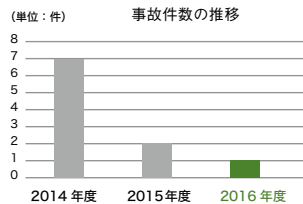
当社の各事業における取り扱い量は自動車回収台数は 137.9%、古紙回収量は 124.4%、小型家電回収量 106.4%、家電取扱数量 113.2% と、順調な伸びを続けています。各事業の取り扱い量の増加は資源創出の増加へとつながっており、今後とも各事業での取り扱い量を増やすことで、資源リサイクルへの貢献を果たしていけるよう努めてまいります。



事故への配慮

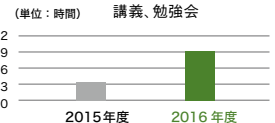
事故数の減少を達成

当社では、事故内容を日時や場所、内容について一覧にまとめ、繰り返し同じ事故をおこさないように配慮しています。事故ゼロを実現するために、細心の注意を払い、業務に取り組んでいく考えです。



環境教育の増加

当社では従業員教育の一貫として環境に関する講義や勉強会などを行っております。今後も実施時間を増やし、従業員の環境保全に対する意識を高めてまいります。



Security action

情報セキュリティへの取り組み

リサイクルと廃棄物処理を行うにあたり、全営業所の24時間監視体制の導入や回収したハードディスクの物理破壊処理を実施するなど、情報漏えいを防ぐために細心の注意を払い、情報セキュリティ対策への徹底に努めています。

24時間セキュリティ監視

部外者の侵入を防ぐための入退室管理並びに、廃棄物を扱う営業所には侵入者による盗難などを防ぐため24時間監視のセキュリティシステムを導入しています。

また個人情報の取り扱いもある営業所では、警備会社と連携した24時間監視によって、不審者の侵入や盗難を防いでいます。



ハードディスクの物理破壊処理

不要になったパソコンや周辺機器は、手解体処理によって、有用金属を回収し処分。マテリアル原料へとリサイクルしています。

物理破壊処理作業では、専用の作業空間で「ハードディスクの物理破壊処理」を実施。個人情報などのデータ漏えいや他社による悪用防止に努めています。





Social action program

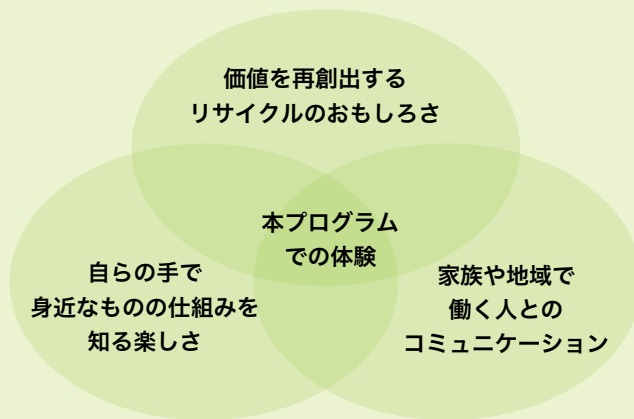
環境社会貢献活動

当社では、「事業を展開している各地域の方々の協力があるこそ、企業活動が成り立つ」という考えのもと、地域社会発展のため、さまざまな環境社会貢献活動へ積極的に取り組んでいます。

未来のたからプロジェクト

地域産業や子どもたち、また限りある地球資源など、さまざまな「たから」を守り続けることを目指し、「未来のたからプロジェクト」と称して、さまざまな活動を展開しています。社内一丸となって、プロジェクトを推進していけるよう、活動の社内広報や社員の意識向上にも取り組んでいます。

「未来のたからプロジェクト」の目的



新たなものづくり
循環型社会へ貢献

「未来のたからプロジェクト」の展開予定

● 環境教育プログラム

「リサイクルっておもしろい！」リサイクルを体験し感じてもらう

● やまたけエコ祭り

循環型の地域を目指し、地域の皆さまと学び・遊び場を開催

● やまたけコンポスト

地域の生ごみを収集・推肥化して配布を予定

● 地域農業支援

コンポストや直売コーナーの設置等で地産地消を支援

● じゅんかんコンビニ

資源物を買って取ってポイント還元

● リサイクル工場見学ツアー

エコを学ぶ“大人のための”社会科見学実施



環境フェスタみさと 2016

「環境フェスタみさと2016」は、“ゴミを出さない工夫でエコライフを実践しよう！”をテーマに、資源回収やエコクラフト体験を通じ、環境問題について学ぶイベントです。地域イベントへの参加を継続していくことで、地域社会との交流を深め、企業活動へのご理解をいただくことに繋がっていきます。

活動成果のご紹介

2016年9月25日で4回目の参加となり、家電のお持ち込みが途ざれることなく続きました。「じゅんかんコンビニ」にて小型家電等を前年よりも約80kg多い482kg収集。普段から当社にお持ち込みいただいている方やリピーターの方もご来場いただき、地域の皆さまとの交流を深めながら、リサイクルへ貢献できました。





〒123-0841 東京都足立区西新井5丁目35番13号
<http://www.yama-take.co.jp>